

米子市文化財保護審議会（平成26年度 第1回）

日 時 平成26年11月10日（月）9:30～
ところ 米子市役所第2庁舎3階会議室

日 程

1 開 会

2 挨拶（文化課長、会長）

3 議 事

（1）米子市文化財の指定候補について（協議及び現地調査）
・ 貴布祢神社の狛犬、水管橋、和田町のハマナス 他

（2）平成26年度前半期の文化財保護事業実施状況について（報告）

4 その他

5 閉 会

※現地調査を予定しています。足元が悪い場合がありますのでご注意ください。

◇貴布禰神社の石造狛犬（有形文化財 彫刻）



県内最古の製作年銘、天明4年（1784）が刻まれる。

製作者、年代が不明なものが多いが、『神社御改帳』にも記載（石唐獅子）

鳥取県の狛犬は島根の影響を受けているが、この狛犬は影響を受けていない。

石材も地元の戸上石と思われる凝灰岩で、来待石ではない。

石工「戸上武助」は大篠津の諏訪神社灯籠にも名前が見られる。

年代の割によく残っているが、阿形上下顎剥落欠損、吽形胴部一部剥落、共に内側剥落激しい。

最近、覆屋が設けられた。

（県立博物館調査にあたり、元来待ストーンミュージアム館長永井泰先生調査）

◇木造狛犬（有形文化財 彫刻）

木造狛犬は県内で数少なく、倉吉市大宮、小鴨神社、三朝町三徳山、三朝町湯谷などの平安～室町期のものが県保護文化財。米子市では、2010年に八幡神社狛犬を調査、その後保護審議会の意見も受け、市内58社について聞取・訪問調査を行い8社で確認。三輪神社、日吉神社、佐陀神社、新印神社の狛犬について追加調査。中世～近世初頭期と思われる三輪輪神社は鎌倉～室町期、八幡神社は安土桃山～江戸初期と推定。佐陀神社と日吉神社は木造紙張着色、新印神社は木造一木造り。

◇八幡神社の木造狛犬 1対（八幡神社所有）

頭部・胸部・前足部分を一材、胴部を一材、後部・後足部分を一材の、合計三材を背部でカスガイでつなぎ、前足肩部に小材を当てて形を整え、それに尾を付ける。頭髪は、阿形は先端がカール状の6束の巻毛で、吽形はバナナ状の束の直毛で作られ、阿形・吽形共に雄形を表し、吽形は角を持つ。両像とも両足先を欠失し、吽形は尾を欠失。阿形は前足をやや前後に構え、顔を少し左側に向けて、大きく胸を張った動きのある姿を表し、吽形は顔を少し右下に向け、腰を落とした静かな姿を表す。



現在は素地に白色（胡粉）を見せているが、口奥に赤色、舌に朱色、巻毛に緑色、目に墨色、腹部に朱色などの色がわずかに残ることから、当初は全体に彩色された華麗な像であったことが知れる。かなりの大きさの堂々とした狛犬で損傷も少ないが、腰部の絞りが弱いなど、全体にやや迫力の欠ける落ち着いた像容や造法から、江戸時代初期の作と推定する。（小山氏調書抄）

2. 三輪神社の木像狛犬 1対（三輪神社所有）

三輪神社は、『三代実録』に神階授与の記載される古社。もとは東南の三輪山にあったが、度々の戦乱のため荒廃、江戸時代初めの正保2年（1645）に現在地に移遷。神像、狛犬共に旧社地から持ち帰ったとされる。損傷激しく、表層は既に失われているが、部材は堅く輪郭、彫刻の形状をよく留めている。一木で、頭、胴、前・後肢を作り出し、足先のみ別材で作る。尾も一体的に作る。力強く、胸の張りが強く見事。古形式で鎌倉末から室町期。阿形口先欠損。頭の巻毛が残る。



3. 日吉神社木造狛犬 1対（日吉神社所有）

近世と思われるが、紙張り彩色（赤・青）で、神使猿を思わせる独特の形状・表情をもつ。再調査の上検討したい。紙張彩色は佐陀神社でも見られたが稚拙・単調。



◇八幡神社の木造神像（有形文化財 彫刻）

中国地方最古級（10c 末～11c）の女神像をはじめとする神像。僧形、仏像も含まれ八幡信仰、神仏混交の歴史を伝える。残片を含め 24 軀。内 12 軀が平安時代、2 軀が江戸～明治、不明 10。



①女神坐像（平安・10末 11c）



②女神坐像（平安・11c）



③女神坐像（平安・12c）



④僧形神坐像（平安・12c）



⑤女神坐像（平安・12c）



⑥男神坐像（平安・12c）



⑦男神坐像（平安・12c）



⑧不動明王立像
（平安・12c）



⑨如来立像
（平安）



⑩観音菩薩立像
（平安）



⑪天部立像
（平安）



⑫菩薩立像
（平安）

◆ 八幡神社神像類 一覧

名称	像高	髮際高	頂一顎	髮際一顎	面幅	耳張	面奥	胸厚	腹厚	膝張	坐奥	制作時期
1 女神坐像(片膝立て)	52.2	42.4	17.8	8.0	8.2	13.8	13.2	11.4	14.4	33.8	20.7	平安時代(～11世紀)
2 女神坐像	33.2	26.8	13.6	6.8	7.2	11.0	10.2		10.2	23.7	16.0	平安時代(12世紀)
3 僧形八幡神坐像	34.8		10.8		7.6	9.4	10.7	9.8	12.6	19.4	12.6	平安時代(12世紀)
4 女神坐像	30.3	25.5	11.6	5.9	6.2	8.2	8.9	8.6	10.4	14.0		平安時代(12世紀)
5 男神坐像	29.0	22.8	(巾子冠・顎) 10.5	3.8	4.8	5.0	5.6		*6.2	15.8	8.6	平安時代(12世紀)
6 男神坐像	27.7	19.6	(巾子冠・顎) 11.8	4.4	4.8	5.0	6.2		7.2	13.6	9.6	平安時代(12世紀)
7 不動明王立像	37.2	34.2	8.7		5.0	6.2	6.7	8.0	9.2			平安時代(12世紀)
8 女神像	34.8	31.2	8.7		7.2	8.4	9.0					江戸～明治(19世紀)
9 男神立像	54.6	48.3	15.8			8.9	8.7	肘張 17.7			裳裾幅 18.8	江戸～明治(19世紀)
10 神像残片	19.3											時期不詳
11 神像残片	20.0											時期不詳
12 童子形立像	24.8											時期不詳
13 如来坐像	18.0	15.6	7.2		4.2	4.2	5.2	5.6	7.2		10.6	時期不詳
14 如来立像	56.8	52.0	11.3	6.8	5.2	6.8	8.0	7.8	10.4		裳裾幅 10.0	平安時代
15 観音菩薩立像	總高 59.6	像高 53.8										平安時代
16 天部立像	38.4											平安時代
17 菩薩立像	33.2											平安時代
18 破損仏像	38.2											時期不詳
19 如来立像	17.0											時期不詳
20 地蔵菩薩立像	20.6											時期不詳
21 如来立像	19.5											時期不詳
22 木彫片	19.8											時期不詳
23 木彫残片	16.5											時期不詳
24 獅子狛犬												室町～安土桃山

※写真/表番号対照

写真①/1、②/なし、③/2、④/3、⑤/4、⑥/5、⑦/6、⑧/7、⑨/14、⑩/15、⑪/16、⑫/17

(単位: cm)

八幡神社所蔵 女神像 解説

高さ五〇・四センチをはかる女神像は、髪を束ねて頭上で結び上げ、さらに左右に振り分けている。丸い顔に目鼻立ちをあらわし、左の襟を内側にして内衣を着し、その上から外着衣(がいとうえ)を着しており、幅広い帯を腰で締めている。右足を曲げ、左足は膝を立てて坐し、右手は右膝の上に置き、左手も立てた左膝の上に置いてある。両手先は失われている。

女神像は広葉樹の一木から彫り出しており、像底からの観察では木心が左右に二つ認められる。このことから神像製作に使った木材は枝分かれした部分か、こぶ状の隆起があるものと推測でき、彫刻用には不向きなこうした「クセ」のある木をあえて使用していることから「御神木」など由緒のある木を使ったと考えられる。表面には白の地色に赤の花柄模様や緑の彩色、頬などに墨線で髪の毛などをあらわしているが、花柄の輪郭が墨線であることや花卉に金泥(金粉をニカワで溶いたもの)を使用していることから、後の時代(江戸時代)に施されている。ただ右すねに当たる部分には制作当初の朱色が残っている。

ふくよかな体のポリリウム感からは威厳が感じられ、また丸い豊かな顔に小ぶりな目鼻立ちからは親しみやすさを感じられ、両者が調和した点が、この神像の大きな魅力となっている。

片膝を立てる神像は全国で十二例ほど認められ、いずれもが九世紀から十一世紀までの製作と考えられている。一昨年暮に発見された女神像は大胆で豪快な作風を示しており、一〇世紀後半から末頃の作品とみられる。それと比べると、今回の女神像は表情が穏やかで、全体に丸みを帯びた造形で、制作時期としては先の女神像よりわずかに降る一〇世紀末頃と考えたい。

鳥取県の神像は、これまで三仏寺宝物館にある女神像(鎌倉時代)と一昨年の八幡神社の神像群以外には知られないが、同じ八幡神社から県下最古級の神像がさらに発見されたことから、八幡神社の歴史や山陰地方での神道の歴史を明らかにする上で、重要な資料であると考えられる。

(関西大学教授 長谷洋一)

◇水管橋（有形文化財 建造物）

大正 15 年（1926）、米子市の水道創設当時に敷設された鑄鉄製水道管。歴史上価値の高い近代化遺産。

◇青木神社社叢（天然記念物 植物）

スタジイ巨木 10 本をはじめ、スギ、モミ、イチイ、ツガ、アオハダ、タブ、サカキ、ツバキ、モチ、イチョウなどからなる。スギ、サカキ、アオハダには巨木が多い。

◇北平神社のムクノキ（天然記念物 植物 巨樹）

幹周り 4.3m、樹高 23m、市内最大。

◇行者山のヤマモモ自然林（天然記念物 植物）

県下では珍しいヤマモモ自然林。

◇岡成のヤマモモ（天然記念物 植物）

「とっとりの名木 100 選」選定の巨木。幹周り 3m、樹高 12m、樹齢推定 300 年。

◇梅翁寺のホダヅユ（天然記念物 植物）

数少ないホダヅユの古木。

◇梅翁寺のナギ、大神山神社のナギ、諏訪神社のナギ（天然記念物 植物）

数少ないナギの古木。

◇芭蕉句碑（有形文化財 歴史資料）

芭蕉百年忌に建立された米子の俳諧文化の成熟を刻む句碑。

◇石馬顕彰碑 附石馬保存会資料（有形文化財 歴史資料）

石馬を記念して建立された鳥取県考古学発祥を刻む文化的所産。

◇弥山禅定闕伽桶（有形文化財 歴史資料）

県指定民俗文化財「大山もひとり神事」の前身行事の行器。

◇博覧会記念塔（有形文化財 歴史資料）

山陰鉄道京都一出雲今市間開通を記念して明治 45 年（1912）に開催された博覧会記念碑。当地方の近代化の始まりを物語る。

◇古曳盤谷奉納「龍之図」（有形文化財 絵画）

榎原出身の画家、志士・古曳盤谷（1804～85）が出郷に際し志願達成を祈願して奉納。佐久間象山と親交し、後松本に家塾を開き人材を育成。米子城主古曳良種子孫。



加茂川橋（西倉吉町～尾高町）の水管橋



糺町の水管橋



青木神社社叢（スダジイ）



北平神社のムクノキ



梅翁寺のボダイジュ



行者山のヤマモモ



芭蕉句碑



博覧会記念碑



石馬顕彰碑



古曳盤谷「龍之図」